

かなたの光

明石市立錦城中学校 第79回生学年通信

第46号

2024(令和6)年
7月18日(木)

一学期が終わろうとしています。その3。

昨日、「タイパが悪い」と思われるようなことでも、せっかくの夏休みなので、是非、取り組んでほしい、書きました。その後でしたかね？終SHRの時にサーカスの招待券が配られていましたね。そんな催し物に行ってみるのも、いいかも知れませんね。

博物館なんかに行くのもおすすめです。
神戸市立博物館ではテルマエ展『お風呂でつながる古代ローマと日本』という企画をやっています。
近くの明石市立文化博物館では『迷路遊びからお城イラストへ 香川元太郎の作品世界』というのをやっていますね。
兵庫県立美術館や兵庫県立考古博物館でも、おもしろそうな企画をやっています。是非、行ってみてください。

夏休み、もっともお薦めしたいのが、読書です。時間の縫つものも忘れて、読書に没頭する…。そんな体験をしてほしいと思います。

今年は読書感想文の宿題が自由課題になったみたいですね。毎年、娘の読書感想文の作成に付き合いました。これが、なかなか大変で、けっこうな分量を書かなければならないんですよね。

青少年読書感想文全国コンクールの規定は中学生は2000字以内。400字詰め原稿用紙5枚以内。うちの娘が通う中学校では、原稿用紙4枚分は必ず書けというものでした。1冊の本の感想だけで、これだけの分量を書けと言われたら、大人でも結構、四苦八苦するのではないのでしょうか。自由課題になって良かったですね。(国語の先生、ごめんなさい)

でも感想文は書かなくても、夏休みに是非、読書をしてほしいと思います。夏休みに、何かをやってほしいと書きましたが、読書は何かをやる代わりになると、私は思います。

今年の課題図書に『アフリカで、バッグの会社ははじめました：寄り道多めの仲本千津の進んできた道』というのがあります。タイトルを見ただけで、とても読んでみたい気持ちになりました。まだ読んでいませんけど、おそらく仲本千津さんという人が体験してきたことが、いろいろと書かれていると思います。バッグの会社ができるまでの紆余曲折が描かれているんでしょうね。想像しただけでワクワクしてしまいます。

そうやって、実際に体験しなくても、読書を通じて体験の代わりに得られるものがあるんじゃないかと思

います。

また、そうした体験談のようなものだけでなく、小説も読んでほしいと思います。小説でなくても、漫画でも、映画でもいいと思いますが、物語に触れて欲しいと思います。物語から学び、得られることも、またたくさんあるからです。

以前、私は小説が嫌いでした。「どうせ嘘の話やん」「ダラダラ長いなあ、サッサと結末だけ教えてほしいなあ。」と、考えていました。でもある時、新聞に出ていたある作家さんのインタビューを読んで、考え方を改めました。

その作家さんは、「私はこの作品を通じて、今の社会に、こういう問題があるんだという事を知って欲しい」と、おっしゃってました。更に物語を通じて「主人公の心の変化を感じ取って、こういう苦しみを感じている人が世の中にいることを、知って欲しい」ともおっしゃってました。

日常生活の中で、人間誰でも、いろいろ頭を働かして、いろいろな事を考えようとするよね。自分はこう考えるけど、他人はどうだろう？こう考えるかな？それともこうかな？みたいな感じで。でも、実際には自分の想像を超えるものがありますか？なかなか他人の気持ちでわかりませよね。で、実際に自分が他人と同じような立場になったり、同じような場面に出合っ、はじめて他人の気持ちがわかるようになったりする…そんな経験ありませんか。

物語の中では、自分が実際に体験したことがないことを、登場人物達が経験します。そして、いろいろと考えをめぐらせます。ええっ、そんな風に考えるのか？と、驚くようなこともあります。そんな事を感じるようになって、小説っておもしろいな、興味深いなあ、と思うようになりました。

特に作者が私と立場が異なったりすると、(例えば、女性であったり、若い人であったり、外国人であったり…)そうした人達が描く物語には、私の中では想像もつかないような人物が登場したり、行動したり、台詞を吐くので、読んでいてとても新鮮で、驚き、発見も多いのです。

少し、ややこしい話になりましたが、あまり小難しいことは考えずに、とにかく夏休みに是非、物語の世界にドブプリとつかって、楽しんでほしいと思います。

